

第 18 回防災学術連携シンポジウムに参加しました (2024/3/25)

テーマ：防災減災, 人口減少, 東日本大震災
会場：オンライン (ZOOM webinar、YouTube)
URL：<https://www.youtube.com/watch?v=wFyLpjTGK7Y> (YouTube)

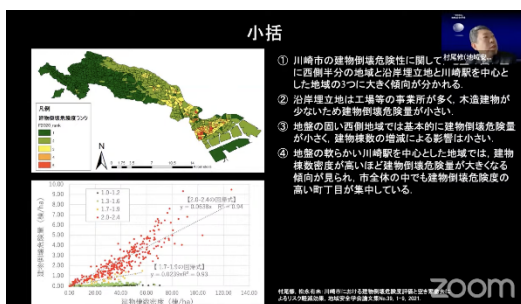
2024年3月25日(月)に、日本学術会議防災減災学術連携委員会および一般社団法人防災学術連携体が主催する日本学術会議公開シンポジウム(第18回防災学術連携シンポジウム)「人口減少社会と防災減災」が、オンラインにて開催されました。当研究所からは村尾修教授(国際防災戦略研究分野)と姥浦道生教授(空間デザイン戦略研究分野)が参加し、講演しました。

一般社団法人防災学術連携体は、日本学術会議と連携して学会間の連携を深めることを目的として設立された組織です。

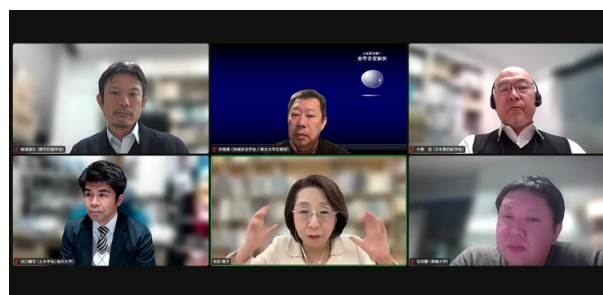
昨今、気候変動等による災害の激甚化を受けて、耐災害性の強化が求められていますが、政府予算は限られており、課題が多いのが現実です。広範囲な被災が想定される南海トラフ地震においては、東日本大震災のような大規模な復旧工事の再現は難しく、能登半島地震においても、被災した過疎地域の復旧のあり方が課題となっており、防災・被災者支援の担い手不足も指摘されています。本シンポジウムでは、こうした人口減少社会における防災減災のあり方を再検討するため、多様な視点から議論されました。

村尾教授は地域安全学会の代表として、「人口減少社会における空き家と地域の建物倒壊リスク」と題し、川崎市を対象として空き家撤去による人口減少時代の地震に対する建物倒壊リスク軽減の可能性を示しました。また、都市計画学会を代表して登壇した姥浦教授は「人口減少社会の都市計画と防災減災」と題し、中長期的な人口減少と防災減災について講演しました。

全体で3時間半にわたる本シンポジウムでは、各学会を代表した合計13名の登壇者により幅広い角度から「人口減少社会と防災減災」が議論され、最後に目黒公郎特任教授(客員)(国際防災戦略研究分野/東京大学教授)が今後の方向性を含めて締め括りました。



村尾教授の発表風景



セッション3「長中期的に人口減少と防災減災を考える」での議論風景

文責：村尾修 (国際防災戦略研究分野)